

産科婦人科学

科目責任者 三 橋 暁
学年・学期 3 学年・3 学期

I. 前 文

産科学は主として妊娠・分娩・産褥という一連の生殖過程、並びにその異常を取り扱うが、同時に出生児（新生児）管理も行い、小児科学と密接な関係を有する。（周産期医学）。一方、婦人科学は特に女性性器疾患の診断・治療を軸として分化・発展してきた学問で、裡に外科的、内科的性格を併せ持っている。同学は女性の性機能の生理と病態を通してその乳幼児期、思春期、性成熟期、更年期、老年期という女性の全生涯に関与する守備範囲の広い学問である。加えて近年の分子生物学やMEの急速な発展とその臨床応用があり、学ぶべき情報量は膨大なものとなっている。限られた時間内にこれらすべてを教授することは困難であるが、下記の学習目標に沿って要領よく講義を進めたい。産科婦人科学は特任教授や埼玉医療センターの先生にも参加頂き、各専門分野の講義を担当して戴いた。医学教育モデル・コア・カリキュラム外の内容や教科書に載っていない最新の内容にも話にも耳を傾けて戴きたい。

II. 担当教員

三 橋 暁	（産科婦人科学）
成 瀬 勝 彦	（産科婦人科学）
望 月 善 子	（産科婦人科学）
尾 林 聡	（産科婦人科学）
柴 田 英 治	（総合周産期母子医療センター）
鈴 木 達 也	（リプロダクションセンター）
多 田 和 美	（総合周産期母子医療センター）
河原井 麗 正	（産科婦人科学）
高 倉 聡	（埼玉・産科婦人科学）
杉 本 公 平	（埼玉・リプロダクションセンター）

III. 一般学習目標

産科婦人科学を生殖内分泌医学、周産期医学、婦人科腫瘍学、女性医学の4領域に大別し、医学教育モデル・コア・カリキュラムにそって、それぞれの知識のゴールデンスタンダードは十分理解出来るような講義内容とした。また、最新の医療情報、学問上のトピックスについても講義中に随時ご紹介する。

IV. 学修の到達目標

各項目別の理解・習得目標は以下の如くである。

- （1）産婦人科臨床の基礎－女性性器の発生・分化・解剖の再確認と産婦人科的診察法の習得。
- （2）生殖内分泌学－間脳・下垂体・卵巢系の内分泌機構、及びその異常の理解、さらに最新医療としての assisted reproductive technology（ART）の理解。
- （3）周産期医学－妊娠・分娩の正常経過とその異常、妊娠・分娩管理、特に妊娠合併症の管理について習得、さらに正常新生児取り扱いに関しても学習。
- （4）婦人科腫瘍学－女性性器（外陰・子宮・卵巢）の良性・悪性腫瘍の分類・診断・治療、発癌機構の理解。
- （5）女性医学－思春期から更年期、老年期に至る各ライフステージにおける女性の生理、病態の把握、また quality of life（QOL）に基づいた hormone replacement therapy（HRT）に代表される治療の必要性の理解。
- （6）感染症、他－STDなど婦人科特有の感染症の診断・治療、及びB,C,G,型肝炎ウイルス、成人T細胞白血病ウイルスに代表される周産期母児垂直感染症などの紹介。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
	11	19	水	1	ガイダンス・総論, 女性性器の解剖・性機能	産科婦人科学 三橋 暁	1
1		19	水	2	月経異常, 内分泌の異常	産科婦人科学 河原井 麗正	1
2		19	水	3	子宮筋腫: 病態・診断・治療	産科婦人科学 河原井 麗正	1
3		19	水	4	子宮頸癌: 疫学・病因・診断・治療	産科婦人科学 三橋 暁	1
4		19	水	5	加齢と性機能	産科婦人科学 望月 善子	1
5		20	木	1	不妊症 (1)	リプロダクションセンター 鈴木 達也	1
6		20	木	2	不妊症 (2)・不育症	リプロダクションセンター 鈴木 達也	1
7		20	木	3	子宮体癌: 疫学・病因・診断・治療	産科婦人科学 三橋 暁	1
8		21	金	1	子宮内膜症: 病態・診断・治療	埼玉・リプロダクションセンター 杉本 公平	1
9		21	金	2	卵巣腫瘍	埼玉・産科婦人科学 高倉 聡	1
10		21	金	3	絨毛性疾患: 病態・診断・治療	産科婦人科学 三橋 暁	1
11		21	金	4	婦人科領域の手術療法	産科婦人科学 三橋 暁	1
12		21	金	5	臨床推論: 腹部膨隆腫瘍	産科婦人科学 河原井 麗正	1
13		25	火	1	産科へようこそ/妊娠の生理 (1) 正常妊娠と管理・健診システム	産科婦人科学 成瀬 勝彦	1
14		25	火	2	妊娠の生理 (2) 胎児発育, 妊娠糖尿病	産科婦人科学 成瀬 勝彦	1
15		25	火	3	胎児の病理 (1) 超音波診断学, 胎児発育不全と胎児形態異常	総合周産期母子医療センター 多田 和美	1
16		25	火	4	妊娠の病理 (2) 異所性妊娠, 多胎, 切迫流産, 切迫早産	総合周産期母子医療センター 柴田 英治	1
17		25	火	5	胎児の生理: 胎児の生理学的評価, 胎児モニタリング	総合周産期母子医療センター 多田 和美	1
18		26	水	1	妊娠の病理 (1) 合併症妊娠	総合周産期母子医療センター 柴田 英治	1
19		26	水	2	母子感染症: 垂直感染, TORCH, 検査と予防・治療	総合周産期母子医療センター 柴田 英治	1
20		26	水	3	性分化と性器形態異常	産科婦人科学 尾林 聡	1
21		26	水	4	避妊, 女性ヘルスケア	産科婦人科学 尾林 聡	1
22		26	水	5	胎児の病理 (2) 胎児疾患・発育異常の診断と治療	総合周産期母子医療センター 柴田 英治	1
23		27	木	1	妊娠の病理 (3) 妊娠高血圧症候群	産科婦人科学 成瀬 勝彦	1
24		27	木	2	産科手術学	総合周産期母子医療センター 多田 和美	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
25	11	27	木	3	周産期救急 母体急変時対応と新生児蘇生法	総合周産期母子医療センター 多 田 和 美	1
26		28	金	1	産婦人科臨床遺伝：着床前・出生前診断・がんゲノムとカウンセリング	産科婦人科学 成 瀬 勝 彦	1
27		28	金	2	分娩・産褥の生理：「分娩の3要素，正常分娩の経過 と分娩管理，産褥の生理」	総合周産期母子医療センター 多 田 和 美	1
28		28	金	3	分娩・産褥の病理（1）「陣痛の異常，回旋・胎位の異常，胎盤の異常など」	総合周産期母子医療センター 柴 田 英 治	1
29		28	金	4	分娩・産褥の病理（2）「産科出血・ショック，産褥異常」	産科婦人科学 成 瀬 勝 彦	1
30		28	金	5	性器の炎症・感染	産科婦人科学 河原井 麗 正	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

学期末試験で評価（試験100%）。

なお定期試験問題内の英語問題は「医学英語 III」の評価として集計される。

出席日数が足りない場合，試験の受験資格無し。

VII. 教科書・参考書・AV資料

参考書：医学書院 標準産婦人科学 第5版

メディックメディア 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科

メディックメディア 病気がみえる vol.10 産科

随時受け付ける。担当教員，もしくは科目責任者に連絡すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義終了後，各講義担当者に不明点など直接質問する。なお学期末試験結果の解説は行わない。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なおシラバス別冊に記載がない場合，シラバス別冊の要点を確認しまとめておくこと。
（所要時間の目安：20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。